インフォメーション No. 8

愛する兄弟姉妹の皆さん、

聖パウロ修道会第 9 回総会は、5 月 15 日、パウロ家族の会員も参列して 11 時からおこなわれた総長シルヴィオ・サッシ神父司式の荘厳ミサをもって閉会しました。説教の中でサッシ神父は次のように述べました。「約 100 年間にわたり、わたしたちは福者ヤコブ・アルベリオーネをとおして『カリスマ』を受けてきました。わたしたちは、これを第 9 回総会をとおして、創造的忠実のうちに再び燃え上がらせようとしました。今日の教会に対しても提示し続けようとしているわたしたちの固有性、すなわち『聖パウロの霊性と使徒的方法をもって、コミュニケーションのうちにコミュニケーションによって福音宣教をすること』という固有性を生かそうとするために、パウロ的カリスマに対するわたしたちの『クレド（信仰宣言）』を再確認したことに、わたしたちは誇りを感じています」。しかし、それは 21 世紀のデジタル・コミュニケーションをそのオリジナリティーのうちに尊重するということです。「コミュニケーションの『手段』ではなく、『生活の場』、『平行する世界』、『新しいメンタリティー』」であると、サッシ神父は喚起しています。この「新しい存在のあり方」としてとらえられたコミュニケーションにおいて、それは「オファー、提案、『証しの役務』としてのみ置かれます。証しする人は自分自身について語るのではなく、自分をとおして他者が垣間見えるように透き通った者だからです」。総長は、説教を終えるにあたって、「デジタル・コミュニケーションにおける『新しい福音宣教』のプロジェクト」へとみずからを開くように招き、福者アルベリオーネの言葉をもって世界のパウロ会員全員を励ましました。「より前進すること！　いつでもさらに前進すること！　……パウロ的使命の高さと深さ、長さと広さを量ること」。

総会の最後の数日間は、非常に密度の濃いものでした。総長とその顧問会の選出の後、優先課題と活動方針を絞り込み、全体集会の決議にゆだねるべく、グループ作業（分科会）を続けました。そして、文書の最終草案が総会の全体集会の場に提出されました。あらゆる点が討議され、数多くの修正案が提案され、最後に、文書は採決をとおして全議員の 3 分の 2 の得票により承認されました。こうして、今後の 6 年間の目標とともに、さまざまな優先課題とその活動方針とが新しい総統治にゆだねられました。文書は、いくつかの分野で構成されています。まず使徒職から出発し、共同体と霊性、次いで召命活動と養成、そして運営管理と奉仕で結ばれています。最後にパウロ家族に関する部分も置かれています。全体集会での最終文書の討議と承認は、13 日（木）から 14 日（金）にかけておこなわれました。

わたしたちは、文書全体の導入として、聖パウロ修道会創立 100 周年を迎えるにあたってのパウロ的アイデンティティーに関する幅広い総括を記すことを決めました。これは総会の初めの数日間になされた考察の実りであり、教会や世界にとってパウロ的カリスマが今日も現代的価値を持ち続けていることを訴えようとするものです。簡潔に述べると、「創立から 100 年の節目にあたって、わたしたちパウロ会員は、司祭も修道士もすべてが、聖パウロの足跡に従い、福者ヤコブ・アルベリオーネをとおして神から受けた賜物を、新たな使徒的駆り立て、信仰、情熱、寛大さをもって、創造的忠実のうちに燃え上がらせようと努めます。わたしたちの修道会の最初の世代を特徴づけていたのと同じ一致の精神をもってです。新しい『パウロ的な春』が実現するためです」。

わたしたちは、総会議員として個別のメッセージをも送ることにしました。メッセージは 2 つで、わたしたちの一般協働者（被雇用者）たちに対してとパウロ家族に対してです。閉会ミサの説教でシルヴィオ・サッシ神父が想起したように、実際に、「福者アルベリオーネはすべてのカテゴリーの人々を福音宣教へと動員しました。司祭、修道士、修道女、世俗にあって聖別奉献を生きる男女の信徒、夫婦、男女の協力者すべてです」。

兄弟姉妹の皆さん、常に関心をもってわたしたちを見守ってくださったことに対して、またこの期間、祈りのうちに絶えず思い起こすことで、わたしたちと共にいてくださったことに対して、皆さん一人ひとりに感謝いたします。

2010 年 5 月 15 日、アリッチャ（ローマ）

インフォメーション担当：アントニオ・リッツォーロ神父

IX CAPITOLO GENERALE
Casa Divin Maestro - 00040 ARICCIA - Tel. (39) 06.93.48.61
capitologenerale@paulus.net - www.paulus.net/cg2010